

普及活動情勢報告（令和4年12月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

安全な農産物を出荷しよう！～作業員向け集出荷場 GAP 研修会～



研修会の様子

11月10日、JA高知県春野営農経済センターにおいて、集出荷場の作業員向けGAP研修会を開催し、作業員65名が出席しました。

研修会では、普及所から「近年の消費者の購買で重視するポイント」、「GAPがなぜ必要なのか」、「集出荷場におけるGAPの取組内容」、「ヒヤリハットの改善事例」について情報提供を行いました。研修会後には、その場で参加者の方からヒヤリハットの報告をいただき、今後の環境改善に活かしていくことになりました。

今後も普及所は、集出荷場GAPの取組支援を行っていきます。

加工品の売上増加に向けて ～6次産業化支援チーム会の開催～



意見交換中の様子

11月24日、JA高知市婦人の家にて、「JA高知市女性部直販部会なるくらぶ」支援チーム会を行い、部員9名が参加しました。これは、6次産業化普及推進事業を活用したもので、店舗集客や販売促進に特化したアドバイザーを招き実施しました。

普及所が分析した加工品販売データをもとに、売上げ目標達成に向けた協議を行い、アドバイザーから「売上げが伸びる年末に向けた取り組みをしましょう。」との声かけがありました。協議の結果、クリスマス限定の新商品開発と人気商品の「かきもち」復活が決定しました。

普及所は今後も関係機関とともに、生産者の課題解決に向けた支援をおこなっていきます。

イチゴ産地の振興に向けて ～イチゴ環境制御技術勉強会～



勉強会の様子

11月22日、普及所会議室において、普及所主催のイチゴ環境制御技術勉強会を開催し、新たな技術の導入に興味のある若手生産者5名が出席しました。

勉強会では、普及所から炭酸ガス施用試験事例や飽差管理について情報提供を行い、今後の活動について話し合いました。生産者同士の生育データを比較したいとの声もあり、今後の勉強会では、普及所が行った生育調査結果をもとに、栽培管理等について比較検討していくことになりました。

普及所は、今後もイチゴ産地の振興に向けて支援を行っていきます。

トマト黄化葉巻病対策の徹底を ～令和5園芸年度トマト部会～



部会の様子

12月8日、JA高知県春野営農経済センターにおいてトマト部会が開催され、生産者6名が参加しました。普及所からは、春野地域で大きな問題となっている黄化葉巻病対策について講習を行いました。黄化葉巻病は、タバココナジラミが媒介するウイルス病で、以前から「コナジラミがすぐ増える」「耐病性品種の症状は」などの相談がありました。そこで、コナジラミ類の生育ステージごとの所要日数や、黄化葉巻病の症状などについて説明しました。生産者からは「そんなに防除間隔をつめないといけないのか」などの声もありましたが、効果的な防除方法の理解を深めることができました。

普及所は今後も関係機関とともに、黄化葉巻病対策について指導を行っていきます。